

あわ
べに
だより
No. 31

2011年2月号

宝塚市議会議員

おおしまと き こ
大島淡紅子

■ 議員控え室

●Tel 0797-77-2117
●Fax 0797-74-1810
●E-mail
goiken@tgikai.zaqrs.jp

■ 事務所

〒665-0816
宝塚市平井 1-6-14
●Tel & Fax
0797-89-4090
●HP
http://ayumukai.jp/
●E-mail
o-ayumukai
@hera.eonet.ne.jp

☆平日 10:00~15:00 に活動しています。但し、不在のこともございますので、お電話をさせていただいてからお越しく下さい。
☆事務所のコピー機・印刷機（新機種入りました）ご利用ください。（有料）
☆事務所をグループ・サークル等の活動にご利用ください。（無料）
《使用日時は電話でお問い合わせください。》
☆事務所に教育・平和・食の安全等、いろいろの本があります。貸し出しもいたしますので、お気軽にご覧ください。



懐かしき、長尾南小PTA最大の催し「とんど」(1/9)

2011年元旦の朝は、予報に反して快晴で、初日の出を見ることができました。それが、はや午後には暗雲立ち込めて、今年もめまぐるしく変化する社会情勢を、あたかも象徴するかのようです。
この春は統一自治体議員選挙があり、私たち議員のこれまでの活動が、市民の皆さんの審判を受けることとなります。

そして、その結果が市政も国政をも動かします。
一昨年私たち有権者は、変革、を選択しました。それを焦って、後戻りさせてはなりません。

市政も国政も半世紀の執政の、ツケが今、沸々と噴出してきたのですから、1年やそこから改善される訳がありません。私たち市民が口出し手出しして監視をしながら、市を国を社会をつくって行く時がやって来しました。

議公会報生口

1 一般質問

縦割り行政と批葉を、よく耳にします。



しかし、考え方によっては、役所というところは、考え方によっては、多くの異なった分野が設けられ、夫々にスペシャリストが存在するので、相乗効果で素晴らしい成果となり、私たち市民の生活に反映されます。

今回は、教育と医療と福祉の連携を願い、質問しました。
1 赤ちゃんの力を教育

(1) 世代交流・保育体験で「命」を実感する

(2) 人と関わる力を養う

Q 「宝塚市教育振興基本計画」の中にもある、「赤ちゃん

や幼児とのふれあい体験学習」の市内学校園での現状や教育委員会の考えは？

A 幼稚園では未就園児対象の子育て教室の中で、小中学校は近隣の幼児との交流やトライやる・ウィークで命の大切さをする心を養っている。

Q コミュニケーション力の養成が、これからの教育のキーワードになる。また若い親には、将来の地域リーダー育成を視野に入れた子育て支援となるのでは

A 福祉・市教委・学校との連携を研究したい



中筋児童館での災害訓練。シャツが抱っこ紐に

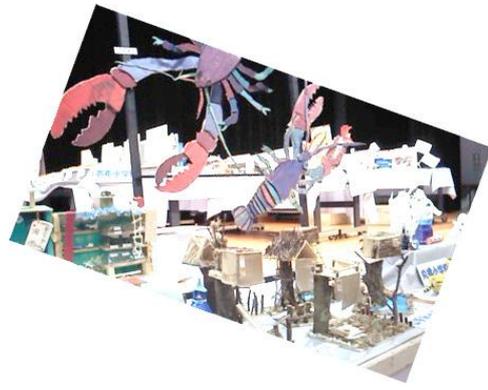
◇この事業は、鳥取大の高塚人志准教授が、「赤ちゃん登校日」として発案し、既に鳥取・島根・石川県で取組まれているものです。

「赤ちゃん和児童がふれあう活動」を3回の実践を継続的に行うので、子どもたちは、赤ちゃんの成長を自分の目で実感し、命の尊さを心と肌で感じます。自分の親への感謝や思いやりに改めて気づき、さらに自分の存在感や役立ち感も生じるようです。自発的に教育的効果が芽生えると報告されています。

さらに、子どもたちから肯定的なメッセージをもらった赤ちゃんの親は、子育てへの自信を深め、愛情を再確認します。注目すべきは、若い親がボラ

ンティアとして地域活動に参加し、教育に貢献する点。自然に第一歩を踏み出しているのです。

この活動が、宝塚市でも中学校で実現するよう、現在、児童館と校長に働きかけています。



今年から幼稚園・伊丹朝鮮初級学校も加わり、スケールが大きくなった「TAKARAっ子造形作品展」。子どもの成長が目で見える。伸び伸びとした作品を観られるのも楽しみです

2 地域医療と福祉との連携

(1) 認知症専門医について

Q 増加し続ける認知症患者を見据え、市はどのように連携していくのか？

A 市立病院外来では、兵庫医大の神経内科専門医による認知症確定診断を実施

Q 患者にとっては身体合併症に対する適切な対応を促進し、認知症の周辺症状や問題行動で疲弊する介護者のためにも、認知症専門医やサポート医が必要



◇内閣府の調査によると、3/4以上の人が自身や家族が老後に寝たきりや認知症になることへの不安を訴えています。宝塚市では、10年後には75歳以上が13・6%（26・9%増）になると予測されています。うち、認知症の方は計算上2千人以上になります。社会を築いて来られた先輩方の生活の「質」を保ちながら地域で暮らすためには、医療と介護の連携や医療から介護への切れ目のないサービスの提供が欠かせません。

そこで、大きな役割を果たすのが「認知症に関する専門医・サポート医」です。

この専門医は「問題行動等で介護者が疲弊している」「重篤な身体的合併症がある」「若年性認知症患者」の場合、特に必要とされます。

一方サポート医には、かかりつけ医の相談役・アドバイザーとなり、各地域医師会と地域包括支援センターとの連携づくりなどの役割を担います。これらの専門医・サポート医は共通

して、かかりつけ医を対象とした認知症対応力の向上を図るための研修を企画立案する役割が求められます。

大牟田市（福岡県）は「認知症とともに、認知症を超えて、誰もが安心して暮らせるまちづくりをあなたとともに目指し」しています。宝塚市立病院も医師会への働きかけだけではなく、まずは脳神経外科で見られる対応の様式化を検討していると、答えています。

(2) 児童虐待における歯科医の役割について

Q 児童虐待防止に大切な早期発見・早期対応に繋がる「歯科診療」について、宝塚市立病院・市立学校の現状は？

A 病院で疑わしい事例は、地域医療室を経由し関係機関へ通報。学校園では、学校歯科医が、養護教諭や学級担任に告げ、必要に応じて保護者と健康相談や市教委・子ども家庭支援センターに報告

Q 要保護児童対策地域協議会には、医師会だけでなく、歯科医師会代表も参加する予定はないか？

A 協力要請だけでなく、通報のルール等連携強化を図る

◇虐待の一種「ネグレクト（養育放棄）」は、大阪の2幼児死亡事件のように、危険な状態になっても、なかなか表面化しにくく、いわば「見過ごされた虐待」であるといえます。しかし、欧米同様日本でも、身体的虐待以上に急増しています。



ネグレクトを受ける子どもは、ストレスや栄養状態の悪化で、つばが十分に分泌されずに虫歯が増えたり、歯ぎしりで歯が削られて短くなる傾向がみられます。虫歯の数は、虐待を受けていない場合の7倍というデータもあります。しかし、日本小児歯科学会の昨夏の調査では、医師の約半数が虐待を疑われる子どもを診察した経験があるにも関わらず、虐待の判断が難しいとの理由で、1割弱しか児童相談所などに通報していません。さらに、通報義務について「知らない」「通報先がわからない」との回答も多く、地域内での連携も不十分だったことが明らかになりました。

虐待を発見しやすい立場にある歯科医師との、早急な連携を願っています。



2 主な議案・請願・陳情の審議

審議

・宝塚市総合計画の基本構想を定めることについて↓修正可決 多田(修正案にも)

・平成21年度宝塚市一般会計歳入歳出決算認定について↓認定 共産・自民・市民ネット・近石・多田

：歳入701億6千83万4千858円、歳出690億3千645万8千181円。委員会では反対したが、本会議では市長与党として認定に賛成

・平成22年度宝塚市一般会計補正予算(第4号)↓可決 公明・近石

財産(スポーツ施設等整備事業用地)の取得について↓可決 公明・近石
：伊藤忠商事大阪総合グラウンドを市土地開発公社が先行取得し、平成23年度に市が公社から4億5千万円＋利息十事務費で取得。開発を回避し緑地を保全し、災害時の防災用空地の確保、並びに不足する市民運動場の補充のため

・宝塚市議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例及び宝塚市特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について↓可決 近石・多田

田

：8年間役職加算凍結。今回、国の法律改正に準じて改正。減額となる

・執行機関の附属機関設置に関する条例の一部を改正する条例の制定について↓継続審査

：教育委員会が設置する宝塚市通学区域審議会の委員の構成を変更するための議案。市民に不信を招いてしまった。この間の、第一小学校関係者や市民への説明責任を果たしていない。また、緊急ではない事案の専決処分は教育委員会軽視。議案取り下げ猶予を与えるため、継続にした

・高等学校等就学支援金の支給に関する検討会議の報告を尊重するよう政府に求める意見書の提出を求める請願↓継続審査

・地域児童育成会の待機児童解消、時間延長および育成料等に関する請願↓採択 公明・爽新・自民・梶川

：就労時間延長で退職せざるを得ない指導員が居る、親との時間は短縮される等の悪しき事実がある。が、家で一人待つ子どもが居る現状を無視できず、会派で割れた

・尖閣諸島及び我が国領土領海を守る意見書提出を求める請願↓趣旨採択

：主権侵害行為に対し、他国の圧力に屈したことを厳しく受け留め、領

界を守る体制確立を求めるもの。全会派一致でなかったため、意見書は未提出

・シックススクール対策を求める請願↓採択

：シックススクール問題の改善やマニュアル作成を県にも求める意見書提出を求めるもの

・シックススクール対策を求める意見書の提出について↓可決

・近石武夫議員に対する三度目の議員辞職勧告決議↓可決(全員一致)

3 決算特別委員会

▽ 一般会計 収入：701・6億円

支出：690・4億円

▽ 特別会計 収入：376・8億円

支出：380・8億円

▽ 基金残高 …… 118・0億円

▽ 地方債残高 …… 827・6億円

(1人当たり36万4千円で、昨年より1万1千円減)

総括質疑では、次の点を質問した。

①「出産育児一時金事業の産科医療補償制度」(2009年1月1日より重度脳性麻痺児のみ補償)の問題点

②「学校教育指導事業の教科書採択」(4年毎の採択年であった)の透明性



今年も、皆さんと共に宝塚の未来に向けて活動していきます!



↑末広中央公園での総合防災訓練(1/17)

ボランティア元年と言われる阪神淡路大震災から16年目。多くのボランティア・自治会やコミュニティ・行政が一体となって取組みます。「絆を忘れない!」



←内閣府参与、年越し派遣村村長の湯浅誠さんと英国で成果を上げる「パーソナル・サポート・サービス」(継続的な生活困窮者への個人的な専門職支援)を訴える。温かい人と人とのつながりが必要なんです!



↑感動を呼んだ神戸朝鮮高級学校吹奏楽部コンサート(12/22)ソリオホールで開催された「吹奏楽と詩の夕べ」。政治の問題で、子どもの育ちに差をつけてはなりません。みんな、同じ社会の子どもです。



早苗田の会

杉山 鮎水 選



- 十二月
- (特選) 拭き込みし回廊に映え紅葉濃し
- ◇ のど飴のゆっくり溶ける冬日向
- ◇ 話しつつ冬日を膝に乗せてをり
- 一月
- (特選) 訛りたるなづな打つ唄母譲り
- ◇ 杉人は終日庵山眠る
- ◇ 二児を得し娘のふくよかに屠蘇に酔ふ
- 綾子 峯子 比登美
綾子 惠之輔

私の職場は阪急山本駅の側にある小規模作業所虹の家です。小規模作業所と言うのは、障がい者の方々が働く場所なのですが、虹の家では、『社会の中で当たり前に障がい者が生きる!』をモットーに日々過ごしています。

運営しているリサイクルショップには、お買い得商品がたくさんあるので宝探しのように楽しく、お買い物ができます。買い物だけ

さいと いきいき彩人



宝塚でいきいきと活動する人を紹介する「いきいき彩人」。

今回は、清荒神在住の信長たか子さんご紹介、逆瀬台在住の福島玲さんです。

地域の中で共に生きる 逆瀬台在住 福島 玲 さん

ではなく、地域の方々との交流の場ともなっており、お喋りをしに来店してくださるお客様もいるほどです。

当店は委託販売も行っており、お預かり期間一ヶ月を過ぎて、再びお客様にご来店頂く時に、作業所に通っている人の中にはいち早くお客様の顔と名前を覚えていて、私達支援員に教えてくれる方もいます。お客様も顔を見ただけで名前を呼ばれるので驚き、感心されます。その逆の場合もあり、時にはお客様に間違った言い方をしてしまう方もいますが、皆様暖かく見守って下さいます。

こんな風に毎日、地域の方々とはお客様が楽しく自然に社会の中で一緒に過ごせる虹の家に皆様も一度遊びにいらっしやいませんか?!

2011年1月分 議員報酬明細



左表の通り報告いたします。不明瞭な点はお尋ねください。説明させていただきます。

議員報酬	610,000	所得税	31,200
		県市民税	47,800
		共済会掛金	97,600
		議員互助会	5,000
		国民健康保険	70,900
		社民党費	54,900
		観光振興議員連盟	0
		互助会活動(郷土史研究会等)	0
		国民年金	15,100
		事務所運営・活動・生活費	287,500
収入合計	610,000	支出合計	610,000

尼崎地区労の旗開きで
尼崎市長 稲村和美さんと



今年も新春は駅伝で始まる。どの走者も、仲間を思い、力の限界まで走る。たおれた仲間の汗が滲み込んだ、たすき、をお守りのように身につけていくのもいい、協力・他を思いやる・後継者を育てる。社会のみならず家族の中でも、これらの力が弱まっている／久しぶりに元衆議院議長 土井さんとお話できた。体調のため外出や講演活動は控えておられるが、お声は変わらず、ハッパをかけて頂いた。同世代で平和活動に精力的なヒバクシヤのOさん、被災地との往復でダウンしておられたようだ。「温かくなれば、本格始動!」いつも、元気を頂いている。女性が政界・社会で活躍できなかつた時代を切り拓いてくれた方たちだ。昨年、尼崎市では最年少女性市長が誕生。宝塚では今年春の市議選に、二桁の女性候補が立ちそう。確実に、たすきが渡されている。